

平成26年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

肉厚・大型しいたけの生産と地域資源の有効活用

○氏名又は名称 有限会社 やまなみきのこ産業 (代表 坂本 憲治)

○所在地 大分県玖珠郡九重町

○出品材 経営 (きのこ類)

○受賞理由

・地域の概要

九重町は、大分県の西部に位置し、くじゅう連山から豊富にわき出る湧水を活かした水稲やしいたけの栽培、標高 350~1,050mに広がる耕地を活かした高原野菜・果樹・肉用牛など農林業の盛んな地域であり、しいたけ栽培の原木となるクヌギ、コナラ林は町面積の1割を占める。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和43年から原木しいたけ栽培を開始し、規模拡大と経営安定化を図るため、平成元年に菌床しいたけ栽培を開始し、平成5年に菌床しいたけ栽培へ一本化した。さらに、肉厚・大型しいたけの生産を成功させ、平成16年に法人化し、現在では年間17万菌床ブロックの製造を行い、菌床ブロック販売(7万ブロック)及び菌床しいたけ栽培(10万ブロック)を行っている。

・受賞者の特色

(1) 肉厚・大型しいたけ生産

通常のしいたけ(直径約6cm)に比べ肉厚・大型なしいたけ(直径8cm以上)の生産により収量が増大し、商品の差別化により商品価値が高まり、販売先が確保(約半数が直販)され、高い収益につながっている。採取・梱包にかかる人件費、資材費も通常サイズに比べ単位重量当たりの経費が削減できている。

(2) 地域資源の有効活用

県内で深刻な問題となっている大径化したクヌギを菌床ブロックに活用することにより、クヌギの再生(萌芽更新)、森林の新陳代謝を促し、環境保全効果を生み出している。このことにより、原木栽培用として利用できない大径化したクヌギの所有者の所得の確保や、原木しいたけ生産者が利用しやすい若齢林分への更新に繋がっている。

(3) 地域貢献への取り組み

地元産クヌギを使用した菌床ブロックの製造からしいたけ採取までの工程において、天然性以外の物、農薬等は一切使用しておらず、高い安全性が確保されている。バック詰め時に切除するしいたけの「足」は地元企業が加工食品への利用開発を行い、廃菌床は養豚業者が製造する堆肥の原料や地域の田畑への土壌改良材などに使われている。

また、菌床しいたけ栽培により、原木しいたけ栽培に比べ作業の軽量化が進み、高齢者でも働ける場所となっており、地元の雇用に貢献している。

・普及性と今後の発展方向

しいたけ菌床栽培の先駆者であり、トップレベルの生産量、品質を誇り、経営も優れた生産者であることから、県の研修受入農家にも認定され、菌床ブロックしいたけ栽培を目指す研修生、Uターンの若手従業員、各機関からの視察などを積極的に受け入れ、技術の普及に取り組むとともに、更なる規模拡大に向けた施設整備を進めている。